

シンポジウム

「生きがい、都市構築」

2010年12月7日[火] 13:30-18:00 東京大学 工学部11号館講堂

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_12_j.html

無料[事前申し込み制、定員100名]

[趣旨]

これからの社会が目指していくべき姿を描きそれを実現するためには、科学技術を駆使して体系的に取り組むべきであると考えられる。

例えば、IBM提案の「スマートな都市」では、都市システムをIT化することで、行政サービス、教育、医療、公共安全、交通、エネルギー等の向上・効率化を企てる。また、「コンパクトシティ」は、狭いエリアにサービスを集結し、高齢者も活動しやすい都市を実現しようとするものである。さらに、リチャード・フロリダ提案の「クリエイティブな都市」では、多様性・開放性・寛容性を有する都市の環境が、人間の誰もが持っている創造性を活性化し、新しい産業やイノベーションを創出すると謳っている。

これらの構想に、「生きがい」を盛り込んで、「生きがいのある都市の創造」を目指して、その仕組み作りをどうデザインすればいいのかを探るのが本シンポジウムの目的である。心から住みたい、住んでみたいと願う理想都市は、日常を楽しく生きたいという極めて自然な要求の中に答えがあるのではないだろうか。

I. 講演会

A

[司会] 篠田 裕之(東京大学)

[知識都市のデザイン]

紺野 登(多摩大学大学院・教授、知識イノベーション研究所・代表)

都市化は多様かつグローバルな社会的問題であるが、その本質は工業社会から知識社会への転換であり、マクロでは知識都市(Knowledge City)が地域活力を創出するデザイン概念として関心を集めている。ミクロレベルではテイラリズム的な組織・職場・オフィス(ファシリティ)から脱してイノベーションのための知識創造型ワークプレイス形成が急務の経営課題である。両者の間には、北欧諸国の省庁中心に広がる「フューチャーセンター」等の未来視点で社会的問題解決を担う知識都市の新たな「場の様態」が生まれている。

B

[働く生きがい/住む生きがい都市—経済地理の立場から]

小長谷 一之(大阪市立大学大学院 創造都市研究科 都市政策専攻・教授)

リチャード・フロリダが『クリエイティブ都市経済論(日本評論社)』で提唱したように、21世紀に発展する都市モデルは、いかにクリエイティブな人々が働きがいある職場環境をつくり、住みがいのある美しい住環境をつくるかにかかっている。これが現在日本で急務の雇用問題、若者や海外からの優秀人材の才能育成・投資促進問題等の本当の解決策につながるにもかかわらず、日本ではその重要性がほとんど理解されていない。ここでは、生きがい都市のモデルの一つである「創造都市戦略」を職場・住の地域論から論じる。

II. パネルディスカッション

[司会] 橋本 秀紀(東京大学)

[パネリスト] 紺野 登(多摩大学)、小長谷 一之(大阪市立大学)、館 暲(慶應義塾大学)、下川 昭夫(首都大学東京)

III. 研究室紹介

東大工学部6号館を中心としたツアー、生きがい都市構築に関連する最新研究を紹介。

パネリスト



紺野 登



小長谷一之



館 暲



下川昭夫

申し込み方法

参加ご希望の方は、氏名、所属、メールアドレスをご記入の上、11月22日までに下記にお申し込みください。参加者が定員に達した時点で募集を締め切らせていただきます。E-mail: sympo@sd.tmu.ac.jp

問い合わせ先

首都大学東京研究環 生きがい都市構築委員会委員長 森 泰親 Tel: 042-585-8640, Fax: 042-583-5119, E-mail: ymori@sd.tmu.ac.jp

共催 協賛 後援

首都大学東京研究環 生きがい都市構築委員会、計測自動制御学会 SICE City委員会
地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
東京都(予定)、東京都産業労働局、日本都市学会、大阪市立大学大学院創造都市研究科